

# 知っておきたい 国会議員の動き

平成28年・最新版

所属政党の変遷

## 目 次

---

衆議院議員の所属政党の変遷	6
参議院議員の所属政党の変遷	36
党派別国会議員一覧	52
各政党役員一覧表	63
衆議院議員勤続年数・当選回数表	71
参議院議員勤続年数・当選回数表	79
衆議院議員生れ年表	83
参議院議員生れ年表	91
自由民主党内派閥一覧	96
各政党綱領	103
2005年以降の主な政党の変遷	132

---

---

# 国会議員の 所属政党の変遷

## 凡 例

- 現職の全衆議院議員・参議院議員の国会議員初当選以降の所属政党の変遷を一覧表にした（平成28年3月27日現在）。
- 矢印(→)は所属政党の変遷を表している。政党名の下のカッコ内は移動の年・月である。
- 現在の所属政党が自民党の議員については所属の派閥名を略称で表記した。ただし、他党から自民党に移籍・復籍した議員の移籍の年・月は自民党へ移籍した年・月であって、派閥に入会した年・月とは必ずしも一致しない。
- 旧所属政党の次に無所属になっている議員については、旧所属政党を離党した場合と、旧所属政党の解党によって無所属になった場合、議長・副議長就任に伴う党籍離脱がある。
- 政党名については略称で表記した。

自民…………自由民主党	太陽……太陽党	☯……細田派
新自ク……新自由クラブ	平和……新党平和	☯……額賀派
さきがけ…新党さきがけ	改ク……改革クラブ(注3)	☯……岸田派
新生……………新生党	黎ク……黎明クラブ	☯……二階派
みらい……新党みらい	友愛……新党友愛	☯……麻生派
国民……………国民新党	民政……民政党	☯……石破派
自由……………自由党(注1)	社会……日本社会党	☯……石原派
保守……………保守党	社民連…社会民主連合	☯……山東派
保新……………保守新党	社民……社会民主党	☯……無派閥
たち日……たちあがれ日本	民主……民主党	
みんな……みんなの党	次世代…次世代の党	
元気………日本を元気にする会	ころ………日本のころを大切にする党	
公明………公明党(注2)	未来………日本未来の党	
民社………民社党	共産………日本共産党	
新進………新進党		

(注1) 1994年4月に結成された自由党（党首・柿澤弘治）と98年1月に結成された自由党（党首・小沢一郎）は政党名は同じであるが別の政党である。

(注2) 「公明党」は94年12月、新進党結党にともなって解党し、地方議員と一部参院議員による「公明」が結成された。98年11月7日に新党平和と公明が合流して新「公明党」が結成。この一覧では旧「公明党」、「公明」、新「公明党」のいずれも公明と表記した。

(注3) 98年1月に結成された改革クラブ（代表・小沢辰男）と2008年8月に結成された改革クラブ（代表・渡辺秀央）は政党名は同じであるが別の政党である。

# 衆議院議員の所属政党の変遷

議員名	選挙区	所属政党の変遷
あ あかま <sup>じろう</sup> 二郎	神奈川県 14	自民 <sup>無</sup>
あべ <sup>としこ</sup> 俊子	④中国	自民 <sup>無</sup>
あ <sup>ずみ</sup> 住 <sup>じゅん</sup> 淳	宮城5	民主→民進 (16.3)
あ <sup>べ</sup> 倍 <sup>しんぞう</sup> 晋三	山口4	自民 <sup>無</sup>
あ <sup>だち</sup> 足 <sup>やすし</sup> 立康史	④近畿	日本維新の会→維新の党 (14.9) →おおさか維新の会 (15.11)
あ <sup>べ</sup> 阿 <sup>ともこ</sup> 部知子	④南関東	社民→未来→みどりの風 (12.11) (13.5) →無所属→民主→民進 (13.7) (14.11) (16.3)
あい <sup>さわ</sup> 逢 <sup>いちろう</sup> 沢一郎	岡山1	自民 <sup>無</sup>
あ <sup>おやぎ</sup> やぎ <sup>よういちろう</sup> 柳陽一郎	④南関東	みんな→結いの党→維新の党 (13.12) (14.9) →民進 (16.3)
あ <sup>お</sup> 青 <sup>やま</sup> 山 <sup>しゅう</sup> 周 <sup>へい</sup> 平	④東海	自民 <sup>細</sup>
あ <sup>か</sup> 赤 <sup>えだ</sup> 枝 <sup>つね</sup> 恒 <sup>お</sup> 雄	④東京	自民 <sup>石</sup>
あ <sup>か</sup> 赤 <sup>ざわ</sup> 澤 <sup>りょう</sup> 亮 <sup>せい</sup> 正	鳥取2	自民 <sup>破</sup>
あ <sup>か</sup> 赤 <sup>ば</sup> 羽 <sup>かず</sup> 一 <sup>よし</sup> 嘉	兵庫2	公明→新進→平和→公明 (94.12) (98.1) (98.11)
あ <sup>か</sup> 赤 <sup>まつ</sup> 松 <sup>ひろ</sup> 広 <sup>たか</sup> 隆	愛知5	社会→社民→民主→無所属 (96.1) (96.9) (12.12) →民主→民進 (14.11) (16.3)
あ <sup>か</sup> 赤 <sup>みね</sup> 嶺 <sup>せい</sup> 政 <sup>けん</sup> 賢	沖縄1	共産
あ <sup>き</sup> 秋 <sup>ば</sup> 葉 <sup>けん</sup> 賢 <sup>や</sup> 也	宮城2	自民 <sup>無</sup>
あ <sup>き</sup> 秋 <sup>もと</sup> 元 <sup>つかさ</sup> 司	④東京	自民 <sup>二</sup>

議員名	選挙区	所属政党の変遷
あきもと まさとし 秋本真利	千葉9	自民 <sup>無</sup>
あさ おけい いちろう 浅尾慶一郎	神奈川4	民主→無所属 <sup>(09.7)</sup> →みんな <sup>(09.8)</sup> →無所属 <sup>(14.11)</sup>
あそ う た ろう 麻生太郎	福岡8	自民 <sup>無</sup>
あな み よう いち 穴見陽一	Ⓣ九州	自民 <sup>無</sup>
あま り 甘利	あきら 神奈川13	新自ク→自民 <sup>(86.8)</sup> <sup>無</sup>
あら い 荒井	さとし Ⓣ北海道	日本新党→さきがけ <sup>(94.7)</sup> →民主 <sup>(96.9)</sup> →民進 <sup>(16.3)</sup>
あん どう 安藤	ひろし Ⓣ近畿	自民 <sup>無</sup>
い 井坂	のぶ ひこ 兵庫1	みんな→結いの党 <sup>(13.12)</sup> →維新の党 <sup>(14.9)</sup> →民進 <sup>(16.3)</sup>
い で よう 井出庸生	せい 長野3	みんな→結いの党 <sup>(13.12)</sup> →維新の党 <sup>(14.9)</sup> →民進 <sup>(16.3)</sup>
い の とし ろう 井野俊郎	群馬2	自民 <sup>無</sup>
いの う え しん じ 井上信治	東京25	自民 <sup>無</sup>
いの う え たか ひろ 井上貴博	福岡1	自民 <sup>無</sup>
いの う え ひで たか 井上英孝	大阪1	自民→日本維新の会→維新の党 <sup>(14.9)</sup> →おおさか維新の会 <sup>(15.11)</sup>
いの う え よし ひさ 井上義久	Ⓣ東北	公明→新進 <sup>(96.10)</sup> →平和 <sup>(98.1)</sup> →公明 <sup>(98.11)</sup>
い ばやし たつ のり 井林辰憲	静岡2	自民 <sup>無</sup>
い さ しん いち 伊佐進一	大阪6	公明

# 党派別国会議員一覽

(平成28年3月27日現在)

○内は当選回数・無所属には諸派を含む。

議員名	選挙区	当選回数	議員名	選挙区	当選回数
<b>自民党</b> 404人 (衆議院290人)			岸田文雄	広島1	⑧
			小池百合子	東京10	⑧
			塩谷立	静岡8	⑧
			鈴木俊一	岩手2	⑧
			渡海紀三朗	兵庫10	⑧
			野田聖子	岐阜1	⑧
			浜田靖一	千葉12	⑧
			林幹雄	千葉10	⑧
			茂木敏充	栃木5	⑧
			山本公一	愛媛4	⑧
			伊藤達也	東京22	⑦
			今津寛	北海道	⑦
			今村雅弘	九州	⑦
			岩屋毅	大分3	⑦
			遠藤利明	山形1	⑦
			小此木八郎	神奈川3	⑦
			木村太郎	青森4	⑦
			河野太郎	神奈川15	⑦
			佐藤勉	栃木4	⑦
			塩崎恭久	愛媛1	⑦
			下村博文	東京11	⑦
			菅義偉	神奈川2	⑦
			田中憲久	神奈川10	⑦
			高市早苗	三重4	⑦
			竹本直一	奈良2	⑦
			棚橋泰文	大阪15	⑦
			根本義昭	岐阜2	⑦
			原田義昭	福島2	⑦
			平沢朝彦	福岡5	⑦
			三原朝彦	東京17	⑦
			宮腰光寛	福岡9	⑦
			望月義夫	富山2	⑦
			山本幸三	静岡4	⑦
			山本拓	福岡10	⑦
				北陸信越	⑦
野田毅	熊本2	⑮			
鳩山邦夫	福岡6	⑬			
保岡興治	鹿児島1	⑬			
麻生太郎	福岡8	⑫			
高村正彦	山口1	⑫			
谷垣禎一	京都5	⑫			
丹羽雄哉	茨城6	⑫			
平沼赳夫	岡山3	⑫			
甘利明	神奈川13	⑪			
伊吹文明	京都1	⑪			
衛藤征士郎	大分2	⑪			
川崎二郎	三重1	⑪			
二階俊博	和歌山3	⑪			
額賀福志	茨城2	⑪			
船田元	栃木1	⑪			
逢沢一郎	岡山1	⑩			
石破茂	鳥取1	⑩			
金子一義	岐阜4	⑩			
園田博之	熊本4	⑩			
村上誠一郎	愛媛2	⑩			
石原伸晃	東京8	⑨			
河村建夫	山口3	⑨			
佐田玄一	群馬1	⑨			
中谷元	高知1	⑨			
古屋圭司	岐阜5	⑨			
細田博之	鳥根1	⑨			
森英介	千葉1	⑨			
山口俊一	徳島2	⑨			
山本有二	高知2	⑨			
安倍晋三	山口4	⑧			
嶋下一郎	東京13	⑧			

議員名	選挙区	当選回数	議員名	選挙区	当選回数
石田真敏	和歌山2	⑥	古川禎久	宮崎3	⑤
江崎鐵磨	愛知10	⑥	松島みどり	東京14	⑤
江渡聡徳	青森2	⑥	三ツ矢憲生	三重5	⑤
小野寺五典	宮城6	⑥	森山裕	鹿児島5	⑤
小淵優子	群馬5	⑥	山口壯	兵庫2	⑤
梶山弘志	栃木4	⑥	吉川貴盛	北海道2	⑤
金子恭克	熊本5	⑥	あべ俊子	④中国	④
河北井村誠	広島3	⑥	赤澤亮正	鳥取2	④
後藤田正義	長崎4	⑥	稲田朋美	福井1	④
櫻田義孝	徳島1	⑥	小里泰弘	鹿児島4	④
新藤義孝	千葉8	⑥	奥野亮実	奈良3	④
高木毅	埼玉2	⑥	城内村茂	静岡7	④
竹下巨子	福井2	⑥	北村茂男	石川3	④
土屋品也	島根2	⑥	左藤章司	大阪2	④
西川公也	埼玉13	⑥	鈴木淳将	④東海	④
馳浩	④北関東	⑥	平寺田稔	東京4	④
平井たく	石川1	⑥	中山泰秀	広島5	④
福井博	香川1	⑥	中永桂子	大阪4	④
松野一純	④四国	⑥	岡島忠美	④北関東	④
松本泰明	千葉3	⑥	長丹羽秀樹	新潟5	④
山口正芳	神奈川1	⑥	西村明宏	愛知6	④
吉野博道	埼玉10	⑥	西銘恒三郎	宮城3	④
秋葉賢治	福島5	⑥	西葉梨康弘	④九州	④
井上信太郎	千葉6	⑥	萩生田光一	茨城3	④
伊藤信太	宮城2	⑤	生田光一	東京24	④
江藤勝信	東京25	⑤	御法川信英	秋田3	④
加藤陽子	宮城4	⑤	宮下一郎	長野5	④
上川知克	宮崎2	⑤	山際大志郎	神奈川18	④
後藤本哲彦	岡山5	⑤	あかま二郎	神奈川14	③
柴山昌一	静岡1	⑤	伊東良孝	北海道7	③
菅原良一	大阪12	⑤	伊藤忠彦	愛知8	③
武谷公弥	長野4	⑤	石原宏高	東京3	③
谷川康稔	熊本3	⑤	うへの賢一郎	滋賀2	③
	埼玉3	⑤	越智隆雄	東京6	③
	東京9	⑤	大塚高司	大阪8	③
	福岡11	⑤	大金塚勝年	埼玉9	③
	兵庫5	⑤	田岡偉民	秋田2	③
	長崎3	⑤	岡原誠二	福島1	③
	兵庫9	⑤	木原誠二	東京20	③

議員名			選挙区	当選回数	議員名	選挙区	当選回数
輿石東	石野次郎	東	山梨	③			
小野	野次郎	次郎	比例	①			
柴田	田巧	巧	比例	①			
田中	中茂	茂	比例	①			
寺田典	田典城	典城	比例	①			
中西健	田健治	健治	神奈川	①			
中山勇	山勇一	勇一	比例	①			
(任期 H31.7.28)							
糸数慶子	数野達男	慶子	沖繩	③			
平野	野達男	達男	岩手	③			
川田龍平	田龍平	龍平	比例	②			
行田邦子	田邦子	邦子	埼玉	②			
井上義行	上義行	義行	比例	①			
松沢成文	沢成文	成文	神奈川	①			
薬師寺みちよ	師寺みちよ	みちよ	愛知	①			
渡辺美知太郎	辺美知太郎	美知太郎	比例	①			



# 各政党役員一覽 (平成28年4月5日現在)



## 自由民主党役員

〒100-8910 千代田区永田町1-11-23

☎03-3581-6211

**総裁** 安倍晋三  
**副総裁** 高村正彦  
**幹事長** 谷垣禎一  
**幹事長代行** 細田博之  
**幹事長代理** 棚橋泰文  
**同** 末松信介  
**副幹事長** 下村博文 (特命担当)、松本純 (筆頭)、後藤田正純、松島みどり、坂本哲志、北川知克、奥野信亮、葉梨康弘、関芳弘、牧原秀樹、松本洋平、鈴木馨祐、原田憲治、松村祥史、牧野たかお、藤川政人、柘植芳文、堀井巖  
**人事局長** 北川イッセイ  
**経理局長** 吉川貴盛  
**情報調査局長** 梶山弘志  
**国際局長** 田中徳一  
**財務委員長** 鈴木俊一  
**選挙対策委員長** 茂木敏充  
**人事委員長** 石田真敏  
**組織運動本部長** 山口泰明  
**同本部長代理** 三ツ矢憲生  
**同** 二之湯智宏  
**団体総局長** 西村明一郎  
法務・自治 菅家一憲  
関係団体委員長 神田憲次  
財政・金融・証券 田野瀬太道  
教育・文化・スポーツ 池田佳隆  
関係団体委員長 比嘉奈津美  
**厚生関係団体委員長** 滝沢求  
**環境関係団体委員長** 山下貴司  
**労働関係団体委員長** 福田夫  
**農林水産関係団体委員長** 福村井英樹  
商工・中小企業 田中英之  
関係団体委員長 田中英之  
運輸・交通 小林史明  
関係団体委員長 小今枝宗一郎

**安全保障関係団体委員長** 三木亨  
**生活安全関係団体委員長** 堀内詔子  
NPO・NGO  
関係団体委員長 石崎徹志  
**地方組織・議員総局長** 坂本哲志  
**女性局長** 高階恵美子  
**青年局長** 牧原秀樹  
**労政局長** 森英介  
**遊説局長** 堀井学  
**衆議院議員総会長** 金子一昭  
**党紀委員長** 山東昭子  
**中央政治大学院長** 岩屋毅  
**国家戦略本部長** 川崎二郎  
**行政改革推進本部長** 櫻田義孝  
北朝鮮による拉致問題対策本部長 古屋圭司  
党・政治制度改革実行本部長 平沢勝栄  
**道州制推進本部長** 原田義昭  
**憲法改正推進本部長** 森英介  
東日本大震災復興加速化本部長 額賀福志郎  
選挙制度改革問題統括本部長 細田博之  
**日本経済再生本部長** 稲田朋美  
**教育再生実行本部長** 渡海紀三朗  
**外交再生戦略会議議長** 高村正彦  
**外交・経済連携本部長** 衛藤征士郎  
2020年オリンピック・東京大会実施本部長 平和安  
推進本部長 江上聡  
**女性活躍推進本部長** 川上陽子  
地方創生実行地統合本部長 鳩山邦夫  
**一億総活躍推進本部長** 逢沢一郎  
歴史を学び未来を長考する本部長 谷垣禎一  
北朝鮮核実験問題 谷垣禎一  
**広報本部長** 木村太郎  
**同本部長代理** 平井たくや  
**同** 愛知治郎  
**広報戦略局長** 土屋品子  
**ネットメディア局長** 菅原一秀  
**新聞出版局長** 塚田一郎  
**報道局長** 後藤田正純  
**国会対策委員長** 佐藤勉  
**委員長代理** 小此木八郎

議員名	党派	選挙区	当選回数	議員名	党派	選挙区	当選回数
<b>4年</b> (3人)				長 峯 誠	自	宮崎	①
江 島 潔	自	山口	①	二之湯 武史	自	滋賀	①
真山 勇一	無	比例	①	新妻 秀規	公	比例	①
山田 太郎	元	比例	①	羽生 田俊	自	比例	①
<b>3年</b> (58人)				馬場 成志	自	熊本	①
東 徹	お	大阪	①	浜野 喜史	民	比例	①
井上 義行	無	比例	①	平木 大作	公	比例	①
井原 巧	自	愛媛	①	藤卷 健史	お	比例	①
石井 正弘	自	岡山	①	堀井 巖	自	奈良	①
石上 俊雄	民	比例	①	堀内 恒夫	自	比例	①
石田 昌宏	自	比例	①	舞立 昇治	自	鳥取	①
磯崎 哲史	民	比例	①	三木 亨	自	徳島	①
大沼 みづほ	自	山形	①	三宅 伸吾	自	香川	①
大野 泰正	自	岐阜	①	宮本 周司	自	比例	①
太田 房江	自	比例	①	森本 真治	民	広島	①
河野 義博	公	比例	①	森屋 宏夫	自	山梨	①
吉良 よし子	共	東京	①	矢倉 克夫	自	埼玉	①
儀間 光男	お	比例	①	薬師寺 みちよ	無	愛知	①
北村 経夫	自	比例	①	山下 雄平	自	佐賀	①
倉林 明子	共	京都	①	山田 修路	自	石川	①
古賀 友一郎	自	長崎	①	山本 太郎	自	東京	①
上月 良祐	自	茨城	①	吉川 ゆうみ	自	三重	①
佐々木 さやか	公	神奈川	①	和田 政宗	自	宮城	①
酒井 庸行	自	愛知	①	渡辺 美太郎	無	比例	①
清水 貴之	お	兵庫	①	渡 邊 美 樹	自	比例	①
島田 三郎	自	島根	①	<b>2年</b> (1人)			
島村 大	自	神奈川	①	阿 達 雅 志	自	比例	①
杉 久武	公	大阪	①				
田中 茂	無	比例	①				
高野 光二郎	自	高知	①				
高橋 克法	自	栃木	①				
滝沢 求	自	青森	①				
滝波 宏文	自	福井	①				
辰巳 孝太郎	共	大阪	①				
柘植 芳文	自	比例	①				
堂故 茂	自	富山	①				
豊田 俊郎	自	千葉	①				
中 泉 松司	自	秋田	①				

# 衆議院議員生九年表

(平成28年3月27日現在)

議員名	党派	選挙区	当選回数	議員名	党派	選挙区	当選回数
<b>昭和11年(1936)</b> 1人				鈴木克昌	民	①東海	⑤
亀井静香	無	広島6	⑬	<b>昭和19年(1944)</b> 7人			
<b>昭和12年(1937)</b> 1人				赤枝恒雄	自	①東京	②
仲里利信	無	沖縄4	①	漆原良夫	公	①北陸信越	⑦
<b>昭和13年(1938)</b> 1人				奥野信亮	自	奈良3	④
伊吹文明	自	京都1	⑪	丹羽雄哉	自	茨城6	⑫
<b>昭和14年(1939)</b> 3人				額賀福志郎	自	茨城2	⑪
二階俊博	自	和歌山3	⑪	原田義昭	自	福岡5	⑦
平沼赳夫	自	岡山3	⑫	細田博之	自	島根1	⑨
保岡興治	自	鹿児島1	⑬	<b>昭和20年(1945)</b> 8人			
<b>昭和15年(1940)</b> 2人				太田昭宏	公	東京12	⑦
麻生太郎	自	福岡8	⑫	川端達夫	無	①近畿	⑩
竹本直一	自	大阪15	⑦	北村茂男	自	石川3	④
<b>昭和16年(1941)</b> 4人				高木義明	民	①九州	⑨
衛藤征士郎	自	大分2	⑪	谷垣禎一	自	京都5	⑫
谷川弥一	自	長崎3	⑤	照屋寛徳	社	沖縄2	⑤
野田毅	自	熊本2	⑮	平沢勝栄	自	東京17	⑦
横路孝弘	民	北海道1	⑫	森山裕	自	鹿児島5	⑤
<b>昭和17年(1942)</b> 7人				<b>昭和21年(1946)</b> 7人			
小沢一郎	生	岩手4	⑮	荒井聰	民	①北海道	⑦
金子一義	自	岐阜4	⑩	今津寛	自	①北海道	⑦
河村建夫	自	山口3	⑨	大島理森	無	青森3	⑪
高村正彦	自	山口1	⑫	大西英男	自	東京16	②
園田博之	自	熊本4	⑩	加藤寛治	自	長崎2	②
土屋正忠	自	東京18	③	菅直人	民	①東京	⑫
西川公也	自	①北関東	⑥	竹下亘	自	島根2	⑥
<b>昭和18年(1943)</b> 2人				<b>昭和22年(1947)</b> 15人			
江崎鐵磨	自	愛知10	⑥	赤嶺政賢	共	沖縄1	⑥
				井上義久	公	①東北	⑧
				池田道孝	自	①中国	②
				今村雅弘	自	①九州	⑦

議員名	選挙区	当選回数	議員名	選挙区	当選回数
吉川 ゆうみ	三重	①			
渡邊 美樹	比例	①			

# 各政党綱領

## 自由民主党綱領

平成22年（2010年）綱領

平成22年1月24日

### 現状認識

我が党は、「反共産・社会主義、反独裁・統制的統治」と「日本らしい日本の確立」一の2つを目的とし、「政治は国民のもの」との原点に立ち立党された。平成元年のベルリンの壁の崩壊、平成3年のソ連邦の解体は、この目的の1つが達成されたという意味で、我が党の勝利でもあった。

そこに至るまでの間、共産主義・社会主義政党の批判のための批判に耐え、我が党は現実を直視し、日米安全保障条約を基本とする外交政策により永く平和を護り、世界第2の経済大国へと日本を国民とともに発展させた。

日本の存在感が増すにつれ、国際化のなかで我々は多くのものを得た反面、独自の伝統・文化を失いつつある。長寿国という誇るべき成果の反面、経済成長の鈍化と財政悪化からくる財政諸機能の不全に現在も我々は苦しんでいる。少子化による人口減少は国の生産力を低下させると言われる。

我が国は、これ等の現実を明るく希望ある未来に変えるため、少子化対策とともに、教育の充実と科学技術開発に国民資源を注力することにより生産性を向上させ、長寿人口の活用と国民資質の向上、国際化への良き対応により、経済成長が達成でき、国民生活の充実が可能なことを世界に示さねばならない。

我々は、日本国及び国民統合の象徴である天皇陛下のもと、今日の平和な日本を築きあげてきた。我々は元来、勤勉を美徳とし、他人に頼らず自立を誇りとする国民である。努力する機会や能力に恵まれぬ人たちに温かく包み込む家族や地域社会の絆を持った国民である。

家族、地域社会、国への帰属意識を持ち、公への貢献と義務を誇りを持って果たす国民でもある。これ等の伝統的な国民性、生きざま即ち日本の文化を築きあげた風土、人々の営み、現在の・未来を含む3世代の基をなす祖先への尊敬の念を持つ生き方の再評価こそが、もう1つの立党目的、即ち「日本らしい日本の確立」である。

我が党は平成21年総選挙の敗北の反省のうえに、立党以来護り続けてきた自由と民主の旗の下に、時代に適さぬもののみを改め、維持すべきものを護り、秩序のなかに進歩を求め、国際的責務を果たす日本らしい日本の保守主義を政治理念として再出発したいと思う。

我々が護り続けてきた自由（リベラリズム）とは、市場原理主義でもなく、無原則な政府介入是認主義でもない。ましてや利己主義を放任する文化でもない。自立した個人の義務と創意工夫、自由な選択、他への尊重と寛容、共助の精神からなる自由であることを再確認したい。従って、我々は、全国民の努力により生み出された国民総生産を、与党のみの独善的判断で国民生活に再配分し、結果として国民の自立心を損なう社会主義的政策は採らない。これと併せて、政治主導という言葉で意に反する意見を無視し、与党のみの判断を他に独裁的に押し付ける国家社会主義的統治とも断固対峙しなければならない。

また、日本の主権を危うくし、「日本らしい日本」を損なう政策に対し闘わねばならない。我が党は過去、現在、未来の真面目に努力した、